愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	子どもの保健		
担当者(Instructors)	小川 真由子	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本科目の目的は「子どもの生命の保持と健康と安全について、正しい知識を身につける」ことである。保育活動の中で、子どもが心身ともに健康で安全に暮らすことは最も重要なことであり、子どもが育っていく上での原点であることを理解する。そして少子化の現状を認識し、一人ひとりの子どもが健やかに生まれ育つための環境や、子どもの成長・発達について知識を深め、積極的に健康増進を図ることの重要性を学習する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式の授業とする。毎回のテーマに沿った時事に関しては、アクティブラーニング形式を導入し、グループワークによるディスカッションを行い、保育者として重要な視点や知見を養う。この講義では、担当者が医療機関における10年以上の看護師および保健師としての現場経験を活かし、授業や学生の指導を行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	子どもの定義と保育保健の意義	子どもの定義、理念と保育保健の意義について学ぶ。	□
第2回	子どもの健康と統計	子どもの健康の考え方や、子どもを取り巻く環境に関わる諸統計について考える。	□
第3回	子どもの健康と地域における保健活動・虐待防止	現代社会における子どもの健康に関する現状を知り、地域における保健活動や虐待防止に関しての保育者の役割を知る。	□
第4回	子どもの成長と発達と保健①	子どもの成長と発達について理解し、発育の特徴について学ぶ。	□
第5回	子どもの成長と発達と保健②	子どもの生理機能の発達について学ぶ。	□
第6回	子どもの成長と発達と保健③	子どもの身体発育について学ぶ。	□
第7回	子どもの成長と発達と保健④	子どもの運動・精神機能の発達について学ぶ。	□
第8回	子どもの心身の健康状態とその把握①	日々の健康観察と心身の不調の早期発見について学ぶ。	□
第9回	子どもの心身の健康状態とその把握②	成長・発達の把握と健康診断について学ぶ。	□
第10回	子どもの病気と予防①	子どもの病気の考え方について学ぶ。	□
第11回	子どもの病気と予防②	子どもに起こりやすい感染症について学ぶ。	□
第12回	子どもの病気と予防③	感染症と保育所における対応について学ぶ。	□
第13回	アレルギー疾患と保育所における対応	子どもに多く発症するアレルギー疾患に対する理解を深め、保育所における対応について学ぶ。	□
第14回	子どもに多い病気	子どもに発症しやすい病気に対する理解を深め、保育所の対応について学ぶ。	□
第15回	子どもの病気の予防	予防接種の意義を知り、おもなワクチンについて理解を深める。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

この科目に関連する社会の時事問題にも関心を持ち、毎回のテーマに関する情報をインターネットなどで調べ学習することや、教科書の予習を行うこと（２時間程度）。 その都度学習資料を活用しながら授業を進めていくので、授業後に読み返してレポートにまとめ、復習し整理していくこと。（2時間程度）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

基本的な知識や語句の理解を前提に、授業内容についての確認テストを適宜行う。フィードバックとして添削・採点した上で返却し、解答の解説を行う。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019子ども発達DP1	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの身体的な発育・発達と保健について説明することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解し、子どもの疾病とその予防法および適切な対応について判断し、説明することができる。
主体性	◆ 2019子ども発達DP3	子どもの保健に関わる活動において、他職種間の連携や協働の意義を理解し、教育者・保育者としての主体的・協働的な役割について説明することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			20%	80%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

平常評価に加えて、その他として確認テストによる理解度の評価と、レポートや課題の内容による評価を総合的に判断する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	堀浩樹・梶美保編『保育を学ぶ人のための子どもの保健』建帛社（2019年）	978-4-7679-5108-9
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		